

**天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略  
事業評価シート（令和3年度）**

## 重要業績評価指標（KPI）一覧表

### 基本目標 1 安定した雇用の確保と地域産業力の強化

項目	取組状況	目標値	実績値	評価
企業立地や奨励金交付事業による村内新規雇用者数	雇用促進奨励金は、工場の敷地面積3,000㎡以上、もしくは建築面積1,000㎡以上のいずれかに該当し、かつ操業開始時に村内に住所を有している雇用者が5人以上で、引き続き1年以上継続して雇用していることが交付要件であり、1回限り1人につき20万円で50人（1,000万円）まで限度である。 令和3年度においては、（株）コンビボックス、（株）フジ電科の2社が分譲となったが、今年度は前者においては倉庫のみの建設のため雇用者はおらず、後者においても建設計画中のため雇用者はいない。	15名 (R2～R6 累計)	0名	2 未達成 (50% 未満)
固定資産税課税免除実施数	東日本大震災復興特別区域法及び企業立地促進法に基づき、事業者が事業のための施設又は設備の新設又は増設を行った場合の固定資産税の課税免除をしている。	15社 (R2～R6 累計)	9社	3 未達成 (80% 未満)
新たな交流の場の創出	道の駅の機能を拡充し、道の駅を拠点とした交流機会の創出と地域経済の活性化を図るため、各種交付金、補助金を活用し、村の魅力である自然環境と調和した「てんえいふるさと公園」の整備に取り組む。	1件 (R6)	0件	2 未達成 (50% 未満)
新規就農者数	長ネギ生産者1名、きゅうり生産者2名(夫婦)が新規就農者として認定され、国の交付金である農業次世代人材投資事業補助金を活用し、支援している。	8人 (R2～R6 累計)	4人	3 未達成 (80% 未満)
自立支援事業による相談、就労支援件数	平成27年4月に施行された生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者自立支援制度として、自立相談支援事業を実施。県から県社協への委託（本村担当窓口は県中・県南生活自立サポートセンター）。訪問支援（アウトリーチ）も含め、生活と就労に関する相談をワンストップ型窓口として機能している。	相談60件 (R2～R6 累計)	相談37件	4 ほぼ達成 (80%～99%)
		就労支援10件 (R2～R6 累計)	就労支援10件	

### 基本目標 2 天栄村への新しいひとの流れの創出

項目	取組状況	目標値	実績値	評価
純異動数（転入-転出）	-	-22 (R2～6 平均)	-34	3 未達成 (80% 未満)
移住・二地域居住問い合わせ件数	地方創生推進交付金を利用し、移住希望者と空き家のマッチングや移住に関する相談窓口の充実を図るため、H30より移住コーディネーターを配置しR2からは（一社）天栄ふるさと夢学校へ移住相談窓口等業務を委託している。移住相談件数は延べ170件と前年度比57件の減だが、リモートによる案内や関係機関との調整も担い、相談1件あたりの負荷が大きくなっている傾向にある。	250件 (R6)	170件	3 未達成 (80% 未満)
移住定住希望者現地検討会参加者数	感染症の影響により行動制限等があり、感染防止からイベント等の開催の時期を見極めることが困難であった。開催にあたっては、準備期間を数か月必要とするため、実施の判断が難しい。	40人 (R6)	0人	1 未実施・把握 できない
移住希望者短期滞在支援者数	感染症の影響により、首都圏からの短期滞在型の移住体験を実施することが困難であった。移住希望者が村の暮らし等を体験できるための手段について改めて検討するとともに、短期滞在住宅の確保を進めていく。	25人 (R6)	0人	1 未実施・把握 できない

空き家バンク相談件数	空き家の利活用及び中古住宅の流通促進を通して、空き家の発生や増加を抑制するとともに、地域の活性化及び地域の環境保全を図ることを目的に、村内の空き家の所在や詳細の把握、所有者へ空き家バンク登録への誘導や促進、利用希望者への現地案内等の調整を行った。	40件 (R6)	20件	3未達成 (80%未満)
片付け・リフォーム補助利用件数	空き家バンク登録物件所有者または利用者が登録物件に居住するための家財処分や改修等費用に対し、最大3/5、150万円の補助を行っている。	3件 (R6)	2件	3未達成 (80%未満)
関係人口創出のための取り組み回数	天栄ファンクラブ制度の運営、県中地方振興局との共同実施によるオンライン交流事業の開催、村オリジナル手拭い“てんぬぐい”作成・配布、天栄村フォトコンテストの開催とカレンダー作成等、主にオンラインやweb、SNS、郵送等を活用した間接的な交流を軸に、さまざまなターゲットに対して関係人口創出の取り組みを実施した。	2回 (R6)	4回	5達成 (100%以上)
観光入込客数	天栄村観光協会と連携し、観光PR事業、天栄村サポーター事業、ファミトリップツアー事業等を実施し、誘客促進に努めた。	380千人 (R6)	318千人	5達成 (100%以上)
滞在型誘客促進事業	令和2年度で事業終了。	100件 (R6)	-	1未実施・把握できない

### 基本目標3 結婚・出産・子育て等サポート体制の充実

項目	取組状況	目標値	実績値	評価
合計特殊出生率 出生数	子育て支援に関する支援事業、補助事業の確立と実施。	1.3 (R2~R6平均)	1.40	3未達成 (80%未満)
		195名 (R2~R6累計)	30名	
てんえい縁結び応援サポーターによる婚約数	独身者がいつでも気軽に相談できる体制確保のため縁結び応援サポーター制度を充実させ、地域の結婚希望の男女の出会いの創出やきっかけづくりに繋げる。	5組 (R2~6累計)	0組	2未達成 (50%未満)
特定不妊治療費助成による妊娠成功件数	子どもを希望しながらも恵まれない夫婦に対し、特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）に要する治療費の一部を助成することにより、経済的負担の軽減及び少子化対策の推進を図ることを目的に実施（年齢および所得制限なし）。	8件 (R2~R6累計)	2件	2未達成 (50%未満)
周産期死亡数	妊娠届があった妊婦に対して、母子健康手帳及び妊婦健康診査受診票（15回分公費負担）を交付し、妊娠早期から継続的な支援を実施している。	0件 (R6)	0件	2未達成 (50%未満)
全国学力・学習状況調査 （問題全国平均正答率の比較）	県教育委員会が作成した「ふくしまの授業スタンダード」を基に主体的・対話的で深い学びが各校で展開されるとともに、「ふくしまの家庭学習スタンダード」による家庭学習への取組みの習慣化を推進した。令和3年度は、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均と同程度だった。	全国平均を上回る (R6)	小：全国平均下回る 中：全国平均と同程度	2未達成 (50%未満)
英検3級取得率（中学校卒業まで）	中学校卒業までに全員が英語検定3級以上を取得することを目指し、英語検定の受講料を補助する。	30% (R6)	18.5%	3未達成 (80%未満)
村外の大学生と地元住民との交流事業の開催	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、交流までには至らなかったが、湯本地区文化祭展示において出品という形で協力していただいた。	400名 (R2~R6累計)	10名	2未達成 (50%未満)

#### 基本目標 4 暮らしやすい生活環境の形成

項目	取組状況	目標値	実績値	評価
"住みやすい"と答えた人の割合	令和元年9月に村内在住の15歳以上65歳未満の方から無作為に抽出した500名を対象に村民アンケートを実施し、第2期総合戦略においてアンケート結果をもとに様々な施策を展開している。	72.5% (R6)	-	1 未実施・把握できない
郡山広域圏における連携の推進	人口減少・少子高齢化社会においても、活力ある地域経済を維持するとともに、圏域住民全体が将来も安心して快適な生活が送れる地域づくりを目指し、17市町村が連携し各種事業に取り組んでいく。 令和3年度に磐梯町が加入し、現在圏域構成市町村は17市町村。	継続 (R2~R6)	継続	5 達成 (100%以上)
バス・タクシー利用券の利用件数	天栄村高齢者バス利用助成事業、天栄村高齢者等タクシー利用助成事業ともに、ホームページへの掲載や各種事業やイベント時に併せてチラシの配布を行い利用の促進を図っている。	40件 (R6)	20件	3 未達成 (80%未満)
福祉車両貸出件数	福祉車両貸出事業として、村内に居住する自力で歩行が困難な高齢者や重度の身体障害者又は知的障害者等に対し、外出を支援するために福祉車両の貸出しを実施し、健康で生きがいのある長寿・福祉社会づくりを図る。	50件 (R6)	11件	2 未達成 (50%未満)
高齢者生きがい活動支援事業参加者数	高齢者の生きがいづくりを目的に、湯ったりミニデイサービス事業 (年5回)、水中ウォーキング事業 (年9回)、いきいきサロン事業 (年9回)、湯本サロン事業 (年9回) を実施している。令和3年度はコロナ禍により、事業の実施回数が減ってしまったが、できる事業については、オンライン等を活用し継続的に実施した。	300人 (R6)	153人	3 未達成 (80%未満)
地域自主サロン数及び参加者数	地域コミュニティ及び健康増進、介護予防の推進のため、各地区又はグループによる茶話会に健康体操や栄養指導、口腔衛生指導を実施。	8か所 (R6)	5か所	4 ほぼ達成 (80%~99%)
生涯学習センター利用者数	生涯学習センターについては、各種講座等主催事業の他、各種団体等への会議、活動への貸し出し利用、また、一般の方々等の図書室利用や中学生の下校時の待機場所としての利用がある。	92000人 (R6)	127983人	5 達成 (100%以上)
体育施設利用者数	また、体育施設については天栄村総合農村運動広場、天栄村体育館、天栄村屋内運動場、天栄村屋内スポーツ運動場を村主催行事の他、村内外の個人、団体及び中学校の部活動等に貸し出ししている。	39000人 (R6)	24055人	
ふるさとサポーター会員数	天栄村を支えていただける応援団「天栄村サポーター」を募集する。会員に、イベント等の案内を随時お知らせするとともに、特典付き会員パスポートを送付し来村を促進する。さらに、4,000円相当の村特産品及び商品紹介のチラシ等を送付し、新規顧客の開拓等の事業効果を図る。	550人 (R6)	508人	4 ほぼ達成 (80%~99%)

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標1 安定した雇用の確保と地域産業力の強化						
基本目標指標	企業立地や奨励金交付事業による村内新規雇用者数		目標値	15名	(R2～R6累計)	担当課 産業課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)	
	基準値	R1		7名		(0社)	
	目標と実績	R2	15名		0名	0.0%	(0社)
		R3			0名	0.0%	(2社)
		R4				0.0%	
		R5				0.0%	
		R6				0.0%	
合計		15名	0名	0.0%	(3社)		
主な事業の取組状況(D)	雇用促進奨励金は、工場の敷地面積3,000㎡以上、もしくは建築面積1,000㎡以上のいずれかに該当し、かつ操業開始時に村内に住所を有している雇用者が5人以上で、引き続き1年以上継続して雇用していることが交付要件であり、1回限り1人につき20万円で50人(1,000万円)まで限度である。 令和3年度においては、(株)コンビボックス、(株)フジ電科の2社が分譲となったが、今年度は前者においては倉庫のみの建設のため雇用者はおらず、後者においても建設計画中のため雇用者はいない。						
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		村内に住所を有する新規雇用者数が5人以上で継続して1年以上雇用という条件があることからなかなか実現には至っていない状況。			
指標および目標値の評価(C)	評価	理由					
	4 現状維持	操業開始前のためまだ実績はない。					
今後の方針・改善策等(A)	分譲会社と連携を取りながら雇用の創出、地域産業力の強化を図っていきたい。						

施策	1. 地域産業の活性化						
重要業績評価指標(KPI)	固定資産税課税免除実施数		目標値	15社	(R2～R6累計)	担当課 税務課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)	
	基準値	R1		15社			
	目標と実績	R2	15社		5社	33.3%	
		R3			4社	60.0%	
		R4				60.0%	
		R5				60.0%	
		R6				60.0%	
合計		15社	9社	60.0%			
主な事業の取組状況	東日本大震災復興特別区域法及び企業立地促進法に基づき、事業者が事業のための施設又は設備の新設又は増設を行った場合の固定資産税の課税免除をしている。						
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)					
指標および目標値の評価(C)	評価	理由					
	4 現状維持	復興特区に係る減収補填について、令和3年3月31日までの施設及び設備の新増設までで終了となるが、令和5年度以降は過疎法に係る減収補填が始まることとなるため現状維持でよいと考える。					
今後の方針・改善策等(A)	過疎法に係る減収補填が始まるため、制度の周知が必要と考える。						

重要業績評価指標 (KPI)	新たな交流の場の創出			目標値	1件	(R6)	担当課	産業課		
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)				
	基準値	R1		-						
	目標と実績	R2	1件		0件	0.0%	第2期造成工事完了			
		R3			0件	0.0%	第3期造成工事完了			
		R4					0.0%			
		R5					0.0%			
		R6					0.0%			
合計		1件	0件	0.0%						
主な事業の取組状況	道の駅の機能を拡充し、道の駅を拠点とした交流機会の創出と地域経済の活性化を図るため、各種交付金、補助金を活用し、村の魅力である自然環境と調和した「てんえいふるさと公園」の整備に取り組む。									
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	2 未達成 (50%未満)	問題・課題等 (C)	国の交付金、補助金を活用した道の駅の建築工事と駐車場等の完成に向けた関係機関との連絡調整を早急に進める必要がある。						
	理由									
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由								
	4 現状維持	建設途中のため、まだ実績はない。								
今後の方針・改善策等 (A)	国の交付金を受け、R4年度に建築工事等を進め、関係機関との連絡調整を行いながら、事業の完成を目指し、道の駅を拠点とした交流機会の創出と地域経済の活性化を図る。									

## 主な事業の個別評価

### (1) 固定資産税等の支援策活用とその他税制上の優遇 (税務課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	企業誘致を促進し、進出企業が地域産業と発展していくためには必要な事業と考える。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続 (現状維持)	復興特区に係る減収補填について、令和3年3月31日までの施設及び設備の新增設までで終了となるが、令和5年度以降は過疎法に係る減収補填が始まることとなるため現状維持でよいと考える。

### (2) 企業立地、雇用促進の支援策の充実 (産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	企業立地において村独自の雇用促進奨励金は企業にとって魅力的であり、村としても地元雇用の確保及び地域産業の発展には必要と考える。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続 (現状維持)	引き続き企業誘致を促進し、立地企業の増加と雇用促進を図る。

### (3) 各種交付金、補助金を活用した「てんえいふるさと公園」の整備 (産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	道の駅の機能を拡充し、道の駅を拠点とした交流機会の創出することにより、利用者の増加が期待され、地域産業の活性化と観光の振興に寄与するものとする。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続 (現状維持)	(仮称)てんえいふるさと公園整備事業を計画的に進め、R3年度は、第3期敷地造成工事を完了した。整備に向け、引き続き継続的に取り組む。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標1 安定した雇用の確保と地域産業力の強化							
施策	2. 持続可能な農林業の推進							
重要業績評価指標(KPI)	新規就農者数			目標値	8人	(R2~R6累計)	担当課	産業課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	H30		4人				
	目標と実績	R2		8人	1人	12.5%	新規認定者3名	
		R3			3人	37.5%		
		R4				0.0%		
		R5				0.0%		
		R6				0.0%		
合計		8人	4人	50.0%				
主な事業の取組状況	長ネギ生産者1名、きゅうり生産者2名(夫婦)が新規就農者として認定され、国の交付金である農業次世代人材投資事業補助金を活用し、支援している。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		新規就農に係る農業次世代人材投資事業の採択要件が厳しい状況ではあるが、JA、農業普及所、農業委員会と情報共有を図る。				
指標および目標値の評価(C)	評価	理由						
	4 現状維持	令和3年度末で認定新規就農者が4名となり、目標値の50%を達成したため。						
今後の方針・改善策等(A)	令和3年度は、3名の採択者となったため、引き続き、制度の周知活動を行い、JA、農業普及所、農業委員会と連携し、新たな人材発掘を行う。							

## 主な事業の個別評価

### (1) 地域の共同活動や営農活動等に関する支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	多面的機能支払交付金事業、中山間地域等直接支払事業などを集落ぐるみで19地区が意欲的に取り組まれており、地域資源の保全に繋がっている。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	村の農業の発展と農村環境保全のため、集落組織による主体的な水路・農道・農用地等地域資源の維持管理は必要不可欠であるため、今後も支援を継続する。

### (2) 農業後継者対策、支援の充実(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	新規就農に係る農業人材投資事業を活用した就農者が年々増加傾向であり、独立自営就農を目的に取り組まれている。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	将来の担い手確保のため、今後も継続する。

## (3) 農業者等の経営規模拡大の支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	5 極めて効果的である	水田農業の規模拡大者を支援する農業経営規模拡大支援事業の申請者は14名となり、意欲的に拡大する農業者が増加している。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	水田農業のリタイヤ者の受け皿となる担い手支援となっているため、今後も継続する。

## (4) 農業者等の機械、施設の導入や作物転換等の総合的な支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	1 効果的ではない	農業者2名につき、農業施設導入の支援を行うため、福島県担い手づくり総合支援事業への事業採択要望を提出したが、不採択となった。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	農家の意欲的な経営規模拡大に寄与するため、ニーズの把握等を行いながら今後も事業を継続。現時点で農業者1名の乾燥施設導入への支援を予定している。

## (5) 村製品のブランディング、PR、販売力強化等の取り組み実施(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	マカや天栄米などを使った新商品の開発を行ったほか、情報誌掲載やサンプルの提供などPR活動を実施し、特産物の消費拡大を図った。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	国の交付金を活用した商品開発は令和3年度で終了となったが、開発した商品を始め、天栄米や長ネギ、ヤーコンといった村の三大ブランドについて積極的に情報発信を行い、販路拡大及び消費拡大を図る。

## (6) 新規農作物栽培の推進、支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	マカの試験栽培を行う生産者3名に対し栽培の支援を行うとともに、うち1名に対し栽培用ハウスの設置費を支援。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	新規農作物の実証栽培に取り組む生産者への支援は、地域農業を守る観点から有効であり、今後も継続していく必要がある。

## (7) 国や県の制度に基づく各種支援による農産物づくりの推進(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	国による農家の収入減少緩和や水田における農作物の作付転換に対して助成を行う経営所得安定対策等の申請手続を支援した。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	主食用米の需要・価格の低迷や資材価格の高騰により、農家は厳しい農業経営を強いられることが予想されるため、国・県の制度を活用した経営支援を行っていく。

## (8) 第三者認証GAPの取得等、安全で持続可能な農業への取り組みを支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	農業者1名がFGAPを取得。GAPに基づいた安全・安心な農産物の生産を進めている。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	GAP取得に向けて相談等があった際、普及所やJA等関係機関と連携し取得に向けて協力していく。

## (9) 村製品のブランディング、PR、販売力強化等の取り組み実施(再掲)(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	マカや天栄米などを使った新商品の開発を行ったほか、情報誌掲載やサンプルの提供などPR活動を実施し、特産物の消費拡大を図った。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	国の交付金を活用した商品開発は令和3年度で終了となったが、開発した商品を始め、天栄米や長ネギ、ヤーコンといった村の三大ブランドについて積極的に情報発信を行い、販路拡大及び消費拡大を図る。



## (10) 国や県の制度に基づく畜産、酪農経営に対する支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	3 どちらともいえない	令和3年度は、実績なし。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	対象となる農家に対し、引き続き情報提供を行い、須賀川農業普及所やJA等関係機関と連携し、支援を継続して行う必要がある。

## (11) 収益性の高い農産物等の生産、販売等への支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	国の産地交付金を活用し、村地域農業再生協議会において策定した「水田フル活用ビジョン」に基づいた高収益作物(野菜、花き類)の水田への作付に対し、上限6,000円/10aの助成を行い、農家の収益力強化を図った。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	新たに「水田収益力強化ビジョン」を策定し、さらなる高収益作物の導入の推進し、農家の収益力強化及び畑地化を含めた水田の有効活用を図る。

## (12) 地域おこし協力隊等の外部人材を活用した鳥獣被害対策の実施(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	有害鳥獣対策として地域おこし協力隊を2名雇用、有害鳥獣駆除に寄与している。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も、農作物被害防止に向けた有害鳥獣駆除を実施するため、地域おこし協力隊を継続して活用していく。

## (13) 住民参画による鳥獣被害対策の推進、支援(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	電気柵の設置費用の一部を補助し、有害鳥獣による農作被害の防止を図った。(2,850m設置)。また、電気柵の設置により有害鳥獣の行動範囲を限定し捕獲効率向上へ繋がった(イノシシ:81頭、ニホンジカ:70頭)
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	有害鳥獣駆除及び農作物被害防止に効果的なため継続して実施していく。

## (14) 国や県の制度に基づく森林整備等の実施(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	ふくしま森林再生事業を活用した大里字八石地内の整備が完了した。また、上松本字長久保地内においても整備の準備を進めており、森林が有する多面的機能の維持・増進を図った。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	森林が有する多面的機能の維持・増進を目的とした森林整備を図るため、継続して実施していく。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標1 安定した雇用の確保と地域産業力の強化							
施策	3. 就労支援							
重要業績評価指標 (KPI)	自立支援事業による相談、就労支援件数			目標値	相談 60件 就労支援 10件	(R2～R6累計)	担当課 住民福祉課	
事業経過 (相談)	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		44件				
	目標と実績	R2	60件		11件	18.3%		
		R3			26件	61.7%	実人数26名	
		R4				61.7%		
		R5				61.7%		
		R6				61.7%		
合計		60件	37件	61.7%				
事業経過 (就労支援)	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		6件				
	目標と実績	R2	10件		6件	60.0%		
		R3			4件	100.0%	3名就職	
		R4				100.0%		
		R5				100.0%		
		R6				100.0%		
合計		10件	10件	100.0%				
主な事業の取組状況	平成27年4月に施行された生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者自立支援制度として、自立相談支援事業を実施。県から県社協への委託(本村担当窓口は県中・県南生活自立サポートセンター)。訪問支援(アウトリーチ)も含め、生活と就労に関する相談をワンストップ型窓口として機能している。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	4 ほぼ達成(80%～99%)	問題・課題等(C)	相談から就労支援、就労に繋がっても、本人の状況により継続ができない場合も多いため、状況が深刻になる前の早い段階で相談・支援に入れるよう、住民への相談窓口の周知、発掘を行っていく必要がある。				
	理由							
指標および目標値の評価(C)	評価	4 現状維持	R3年度は、相談件数が増加し、就労支援により確実な就労につなげることができた。今後も継続的に実施していく。					
	理由							
今後の方針・改善策等(A)	困窮世帯の発掘、早期介入が図れるよう相談窓口の周知及び各関係機関との連携を図る。							

## 主な事業の個別評価

(1) 若い世代や低所得者等への就労支援、相談機関との連携(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	生活困窮者へ相談支援事業等を実施することにより、自立に向けた意欲の向上や就労等につながっている。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も生活自立サポートセンターと連携しながら、就労支援等を継続していく。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標		基本目標2 天栄村への新しいひとの流れの創出						
基本目標指標	純異動数(転入-転出)			目標値	▲ 22	(R2~6平均)	担当課 住民福祉課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		▲ 26		(H27~R1平均)		
	目標と実績	R2	▲ 22		▲ 38	-172.7%	転入157、転出195 現住人口調査より	
		R3			▲ 34	-327.3%	転入151、転出185 現住人口調査より	
		R4				-327.3%		
		R5				-327.3%		
		R6				-327.3%		
合計		▲ 22	▲ 14	-152.8%				
主な事業の取組状況(D)	特段の取組なし							
目標(KPI)達成分析(C)	評価		問題・課題等(C)	新型コロナウイルスの影響で国内外の異動が制限されたため、外国人転入者数が例年と比べて減少傾向となっている。				
	3 未達成(80%未満)							
指標および目標値の評価(C)	評価		理由					
	4 現状維持		継続した実績値の集約や達成率の経過を計るため現状維持とする。					
今後の方針・改善策等(A)	特になし							

施策		1. UIJターンの促進・関係人口の創出						
重要業績評価指標(KPI)	移住・二地域居住問い合わせ件数			目標値	250件	(R6)	担当課 企画政策課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		238件				
	目標と実績	R2		240件	227件	94.6%	移住相談委託先(夢学校)による集計	
		R3		240件	170件	70.8%	移住相談委託先(夢学校)による集計	
		R4		245件		0.0%		
		R5		250件		0.0%		
		R6		250件		0.0%		
合計								
主な事業の取組状況	地方創生推進交付金を利用し、移住希望者と空き家のマッチングや移住に関する相談窓口の充実を図るため、H30より移住コーディネーターを配置しR2からは(一社)天栄ふるさと夢学校へ移住相談窓口等業務を委託している。移住相談件数は延べ170件と前年度比57件の減だが、リモートによる案内や関係機関との調整も担い、相談1件あたりの負荷が大きくなっている傾向にある。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価		問題・課題等(C)	コロナ禍により地方移住への注目が高まり、県内でも移住者の奪い合いの状態。どうしてもより交通の便が良く生活環境の整った地域へと流れてしまうと天栄村は弱い。				
	3 未達成(80%未満)							
指標および目標値の評価(C)	評価		理由					
	4 現状維持		まだ当面は地方移住への関心は高い傾向が続くことが予想されるため、村の受け入れの現状を勘案しつつ現状維持とする。					
今後の方針・改善策等(A)	コロナ禍において、どのような形で本村の魅力を最大限にPRできるか、様々な条件有利地との差別化を図れるよう魅力的な施策、支援策を検討する必要がある。							

重要業績評価指標 (KPI)	移住定住希望者現地検討会参加者数			目標値	40人	(R6)	担当課	企画政策課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		30人		(R1)		
	目標と実績	R2	30人	0人	0.0%	感染症の影響により実施なし		
		R3	30人	0人	0.0%	感染症の影響により実施なし		
		R4	35人		0.0%			
		R5	35人		0.0%			
		R6	40人		0.0%			
合計	40人							
主な事業の取組状況	感染症の影響により行動制限等があり、感染防止からもイベント等の開催の時期を見極めることが困難であった。開催にあたっては、準備期間を数か月必要とするため、実施の判断が難しい。							
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	問題・課題等 (C)		感染症の影響によりイベント等の開催の判断が難しい。				
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由						
	2 指標の変更を検討	首都圏の方を対象とするイベントであるため、感染症の影響は大きい。開催手法、内容について検討し、指標の変更も視野にいれる。						
今後の方針・改善策等 (A)	今後の開催方法については他のイベント等との抱き合わせや代替実施等、指標の変更も含め検討していく。							

重要業績評価指標 (KPI)	移住希望者短期滞在支援者数			目標値	25人	(R6)	担当課	企画政策課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		21人				
	目標と実績	R2	20人	0人	0.0%	短期滞在住宅0棟		
		R3	22人	0人	0.0%	短期滞在住宅0棟		
		R4	23人		0.0%			
		R5	24人		0.0%			
		R6	25人		0.0%			
合計	25人							
主な事業の取組状況	感染症の影響により、首都圏からの短期滞在型の移住体験を実施することが困難であった。移住希望者が村の暮らし等を体験できるための手段について改めて検討するとともに、短期滞在住宅の確保を進めていく。							
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	問題・課題等 (C)		短期滞在住宅が確保できていないことから、体験宿泊ができない。また感染症の影響により、首都圏の方々を呼び込んで体験実施等を行うことが難しい。				
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由						
	2 指標の変更を検討	首都圏の方や県外村外の方々を対象とする事業であるため、感染症の影響は大きい。実施手法、内容について検討し、指標の変更も視野にいれる。						
今後の方針・改善策等 (A)	今後の展開方法については他の事業等との抱き合わせや代替実施等、指標の変更も含め検討していく。							

重要業績評価指標 (KPI)	空き家バンク相談件数			目標値	40件	(R6)	担当課	建設課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		17件				
	目標と実績	R2	35件	14件	40.0%	物件登録3、利用登録11、成約0		
		R3	35件	20件	57.1%	物件登録1、利用登録19、成約0		
		R4	40件		0.0%			
		R5	40件		0.0%			
		R6	40件		0.0%			
合計	40件							
主な事業の取組状況	空き家の利活用及び中古住宅の流通促進を通して、空き家の発生や増加を抑制するとともに、地域の活性化及び地域の環境保全を図ることを目的に、村内の空き家の所在や詳細の把握、所有者へ空き家バンク登録への誘導や促進、利用希望者への現地案内等の調整を行った。							
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	3 未達成 (80%未滿)		問題・課題等 (C)	村内で利活用が即時可能な空き家数が少なく、修繕を要したり取り壊し必須の空き家も目立つ。利用登録者にスムーズに紹介できる物件に限りがある。			
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由						
	4 現状維持	U・I・Jターンの様々な移住者にとって、空き家の利用は効果があり、今後も現状維持で事業推進していく。						
今後の方針・改善策等 (A)	「住める空き家・住みたくなる空き家」としての整備を図るため、各種補助等を周知広報し、利活用が困難な空き家に関しては解体を促す等、新築のための土地利用の推進・検討も併せて行っていく。							

重要業績評価指標 (KPI)	片付け・リフォーム補助利用件数			目標値	3件	(R6)	担当課	建設課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		3件				
	目標と実績	R2	3件	4件	133.3%	改修補助3件、家財撤去1件		
		R3	3件	2件	66.7%	改修補助1件、家財撤去1件		
		R4	3件		0.0%			
		R5	3件		0.0%			
		R6	3件		0.0%			
合計	3件							
主な事業の取組状況	空き家バンク登録物件所有者または利用者が登録物件に居住するための家財処分や改修等費用に対し、最大3/5、150万円の補助を行っている。							
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	3 未達成 (80%未滿)		問題・課題等 (C)	一定の効果は見込めたが、賃貸のニーズが多くしかも比較的低廉な家賃設定であるために費用捻出のハードルが高く、空き家の特性上貸主の費用負担を求めることも難しいため利用が進まない。			
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由						
	4 現状維持	移住者希望者にとって空き家の利用は効果があり、今後も現状維持で事業推進していくとともに、除去費用への補助も併せニーズに応じ展開していく。						
今後の方針・改善策等 (A)	「住める空き家・住みたくなる空き家」としての整備を図るため、各種補助等を周知広報し、利活用が困難な空き家に関しては解体を促す等、新築のための土地利用の推進・検討も併せて行っていく。							

重要業績評価指標 (KPI)	関係人口創出のための取り組み回数			目標値	4回	(R6)	担当課	企画政策課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		2回				
	目標と実績	R2	2回	1回	50.0%	ファンクラブ		
		R3	2回	4回	200.0%	ファンクラブ、オンライン交流事業、てんめぐい作成、フォトコンテスト		
		R4	2回		0.0%			
		R5	3回		0.0%			
		R6	4回		0.0%			
合計	4回							
主な事業の取組状況	天栄ファンクラブ制度の運営、県中地方振興局との共同実施によるオンライン交流事業の開催、村オリジナル手拭い“てんめぐい”作成・配布、天栄村フォトコンテストの開催とカレンダー作成等、主にオンラインやweb、SNS、郵送等を活用した間接的な交流を軸に、さまざまなターゲットに対して関係人口創出の取り組みを実施した。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価		問題・課題等(C)	コロナ禍にあり、直接来村していただいて村を体感していただける事業は難しい状態だったが、間接的な関わりによる手法等でさまざまな取り組みに挑戦することができた。				
	5 達成(100%以上)							
指標および目標値の評価(C)	評価		理由					
	4 現状維持		今後も感染症の動向を随時勘案しながらの事業展開が予想される。直接・間接問わず関わりをもってもらえる事業を検討していくため現状維持とする。					
今後の方針・改善策等(A)	本関係人口創出事業によりつながった縁をより深化させるとともに、サポーター制度申込者やふるさと納税寄附者等、別の入り口からの関係人口も取り込んでいくため、工夫しながら幅広く今後も広めていく。							

## 主な事業の個別評価

### (1) 移住等に関する情報発信の充実(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	移住希望者の相談を直接受けることができる機会を提供することができ、移住実績もあることから効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	SNS等を活用し幅広く村の積極的な情報発信を充実させていく。

### (2) 移住コーディネーター等を活用した移住支援(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	移住希望者の各種ニーズに応じた暮らし方の提案やマッチングをすることができるため、効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	移住に関して、生活や就労、子育てなど全般にわたるコーディネートが必要となることから組織的かつ継続的な関わりが維持できる体制を継続して構築していく。

### (3) 移住を検討する機会の提供、各種支援等の実施(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	コロナ禍による移住への注目が高まっているため、SNSやオンライン等を活用して情報発信と移住支援を実施している。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も、各種媒体を活用しながら移住施策を継続して展開していく。

(4) 空き家等情報の提供、相談体制の充実(建設課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	空き家への所有者、利用者のニーズを細かく把握し対応している。移住者確保に繋がっているケースもあり効果的である。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も移住施策や空き家バンク等を通じた情報提供を積極的に行い、相談体制の充実と関係者間の連携強化を図る。

(5) 空き家等の利活用の推進、支援(建設課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	空き家バンクによりUターン者だけでなくI・Jターンの移住者への住宅確保実績があり、幅広く効果的である。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	「住める空き家・住みたくなる空き家」としての整備を図るため、各種補助等を周知広報し、利活用が困難な空き家に関しては解体を促す等、新築のための土地利用の推進・検討も併せて行っていく。

(6) 住宅取得、建設等に対する支援(企画政策課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	村外からの転入者で新しい住居を取得する方やUターンの方に住宅取得の支援をすることで、転入者の増加が図られる。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	県や各種補助制度と併せ、住宅取得等の支援を行っていく。

(7) 関係人口創出のための取り組みの実施(企画政策課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	コロナ禍にあり、直接来村していただいて村を体感していただける事業は難しい状態だったが、間接的な関わりによる手法等でさまざまな取り組みに挑戦することができた。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も感染症の動向を随時勘案しながらの事業展開が予想される。直接・間接問わず関わりをもってもらえる事業を検討していくため現状維持とする。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標2 天栄村への新しいひとの流れの創出								
施策	2. 観光・交流の促進								
重要業績評価指標(KPI)	観光入込客数			目標値	380千人	(R6)	担当課	産業課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)			
	基準値	H30	/	309千人	/				
	目標と実績	R2		220千人	236千人	107.3%			
		R3		260千人	318千人	122.3%			
		R4		300千人		0.0%			
		R5		380千人		0.0%			
		R6		236千人		0.0%			
		合計		380千人					
主な事業の取組状況	天栄村観光協会と連携し、観光PR事業、天栄村サポーター事業、ファミトリップツアー事業等を実施し、誘客促進に努めた。								
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		目標値は達成したものの、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害が残る中、新型コロナウイルスの感染拡大により、宿泊者数や観光客が未だ戻ってきていないため、観光商工業に甚大な影響を与えている。					
	5 達成(100%以上)								
指標および目標値の評価(C)	評価	理由							
	4 現状維持	目標値は達成したものの、今後の新型コロナウイルスの感染の先行きが不透明なため、目標値は現状維持とする。今後も各種事業により村のPRを行い、観光入込客数の回復に努める。							
今後の方針・改善策等(A)	観光産業の状況や新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、現在及びアフターコロナの観光客の増加につながる各誘客事業を推進していく。								

重要業績評価指標(KPI)	滞在型誘客促進事業			目標値	100件	(R6)	担当課	産業課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)			
	基準値	H30	/	97件	/				
	目標と実績	R2		100件	16件	16.0%	延べ200人		
		R3		100件		0.0%			
		R4		100件		0.0%			
		R5		100件		0.0%			
		R6		100件		0.0%			
		合計		100件	16件	16.0%			
主な事業の取組状況	令和2年度で事業終了。								
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		-					
	1 未実施・把握できない								
指標および目標値の評価(C)	評価	理由							
	2 指標の変更を検討	-							
今後の方針・改善策等(A)	-								



## 主な事業の個別評価

### (1) 首都圏での各種イベント・PR活動の実施(産業課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	3 どちらともいえない	新型コロナウイルスの影響でイベントがほとんど中止となっしまい、思うようにPRできなかったが、参加したイベントでは特産品をはじめ一定の村のPRができたと思われる
必要性評価および今後の方向性	5 継続(拡大)	新型コロナウイルスの状況を見極めながら、積極的にPR活動を行っていく。

### (2) キャンペーンクルー等を活用したPR活動の実施(産業課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	3 どちらともいえない	新型コロナウイルスの影響により実績なし
必要性評価および今後の方向性	2 改善・見直し	新型コロナウイルス感染予防を踏まえ、HPやSNSなどを活用したPR活動の方法と、コンテンツの充実について検討する必要がある。

### (3) 各種交付金・補助金を活用した「てんえいふるさと公園」の整備(再掲)(産業課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	道の駅の機能を拡充し、道の駅を拠点とした交流機会の創出することにより、利用者の増加が期待され、地域産業の活性化と観光の振興に寄与するものと考えている。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	(仮称)てんえいふるさと公園整備事業を計画的に進め、R3年度は、第3期敷地造成工事を完了した。整備に向け、引き続き継続的に取り組む。

### (4) 交流人口の拡大や地域活性化を図る各種イベントの開催(企画政策課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	コロナ禍にあり、直接来村していただいて村を体感していただける事業は難しい状態だったが、間接的な関わりによる手法等でさまざまな取り組みに挑戦することができた。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も感染症の動向を随時勘案しながらの事業展開が予想される。直接・間接問わず関わりをもってもらえる事業を検討していくため現状維持とする。関係人口でつながった縁をより深化させるとともに、サポーター制度申込者やふるさと納税寄附者等、別の入り口からの関係人口も取り込んでいくため、工夫しながら幅広く今後も広めていく。

### (5) 村内施設を活用した誘客促進の取り組みの実施(産業課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	新型コロナウイルス感染症の影響による観光入込客数の減少に対応するため、村内の施設を活用した誘客により、入込客数の回復を図った。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も引き続き、補助事業等をふまえ、村のPR活動を行い、村内施設への誘客促進を図って行きたいと考える。

天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標3 結婚・出産・子育て等サポート体制の充実							
施策	1. 結婚希望の実現							
基本目標指標	合計特殊出生率 出生数			目標値	1.30 195人	(R2～R6平均) (R2～R6累計)	担当課	住民福祉課
事業経過 (合計特殊出生率)	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		1.19		(H27～R1平均)		
	目標と実績	R2	1.30		0.97	74.6%		
		R3			1.40	91.2%	出生数30人	
		R4				60.8%		
		R5				45.6%		
		R6				36.5%		
合計		1.30	0.59	45.6%				
事業経過 (出生数)	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		189人		(H27～R1累計)		
	目標と実績	R2	195人		20人	10.3%		
		R3			30人	25.6%	合計特殊出生率1.4%	
		R4				25.6%		
		R5				25.6%		
		R6				25.6%		
合計		195人	50人	25.6%				
主な事業の取組状況(D)	子育て支援に関する支援事業、補助事業の確立と実施。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		子育て支援制度と共に、親が安心して生活できる基盤作りと仕事の安定。子育てとの連動性が必要。				
指標および目標値の評価(C)	評価	理由						
	4 現状維持	子育て支援については、一過性のものでなく、中長期的な成果を目的としている。						
今後の方針・改善策等(A)	継続的な取り組みの実施が必要。							

重要業績評価指標(KPI)	てんえい縁結び応援サポーターによる婚約数			目標値	5組	(R2～6累計)	担当課	企画政策課		
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)				
	基準値	R1		0組						
	目標と実績	R2	5組		0組	0.0%	サポーター数:2名			
		R3			0組	0.0%	サポーター数:9名			
		R4					0.0%			
		R5					0.0%			
		R6					0.0%			
合計		5組	0組	0.0%						
主な事業の取組状況	独身者がいつでも気軽に相談できる体制確保のため縁結び応援サポーター制度を充実させ、地域の結婚希望の男女の出会いの創出やきっかけづくりに繋げる。									
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		感染症の影響により、サポーターの活動が思うようにできなかった。						
指標および目標値の評価(C)	評価	理由								
	4 現状維持	ニューノーマルでの婚活に照準を合わせ、確実な成婚への支援を確保するため現状維持とする。								
今後の方針・改善策等(A)	個々の活動は難しいなかでも、結婚への機運の醸成やきっかけづくりに奔走したり、サポーター数の増加、サポーター活動の充実のための養成講座等を実施する。									

## 主な事業の個別評価

### (1) 独身者への結婚相談等支援体制の充実(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	サポーターを確保し、サポーター養成講座等で横の繋がりも維持しつつ地域を知る先輩方による支援体制を充実させ、成婚後のアフターフォローも期待できる。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	ニューノーマルでの婚活に照準をあわせ、確実な成婚への支援を確保するため現状維持し体制充実を図る。

### (2) 独身者への出会いの機会等の提供(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	3 どちらともいえない	感染症の影響により婚活パーティーは実施不可により機会の提供ができなかった。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	ニューノーマルでの出会いの機会の場の提供について検討するため現状維持とする。

### (3) 結婚マッチングシステム等の利用促進・支援(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	県が展開するマッチングシステム「はぴ福なび」への登録を周知し、登録料の補助を支援することで出会いの機会の幅が広がるため効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も県と協力し周知広報を図り、補助等の支援も啓発し利用拡大に努めていく。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標3 結婚・出産・子育て等サポート体制の充実						
施策	2. 出産・子育て支援						
重要業績評価指標(KPI)	特定不妊治療費助成による妊娠成功件数		目標値	8件	(R2～R6累計)	担当課 住民福祉課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)	
	基準値	R1		7件		(H27～R1累計)	
	目標と実績	R2	8件		2件	25.0%	
		R3			0件	25.0%	申請延件数 5件
		R4				25.0%	
		R5				25.0%	
		R6				25.0%	
合計		8件	2件	25.0%			
主な事業の取組状況	子どもを希望しながらも恵まれない夫婦に対し、特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)に要する治療費の一部を助成することにより、経済的負担の軽減及び少子化対策の推進を図ることを目的に実施(年齢および所得制限なし)。						
目標(KPI)達成分析(C)	評価	2 未達成(50%未満)	問題・課題等(C)	妊娠・出産に至らなかった場合の精神面のフォロー。			
指標および目標値の評価(C)	評価	理由					
	3 数値の下方修正	不妊治療の保険適用に伴い、助成事業を廃止。 なお、年度をまたぐ治療については、経過措置を講じる。					
今後の方針・改善策等(A)	保険適用の円滑な移行に向け、令和3年度から令和4年度の移行期に治療がまたがっている方々に対し、治療計画に支障が生じないよう、その経済的負担の軽減を図る経過措置を講じる。						

重要業績評価指標(KPI)	周産期死亡数			目標値	0件	(R6)	担当課 住民福祉課	
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		-				
	目標と実績	R2		0件	0件	100.0%		
		R3		0件	1件		早期新生児死亡	
		R4		0件				
		R5		0件				
		R6		0件				
合計								
主な事業の取組状況	妊娠届があった妊婦に対して、母子健康手帳及び妊婦健康診査受診票(15回分公費負担)を交付し、妊娠早期から継続的な支援を実施している。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	2 未達成(50%未満)	問題・課題等(C)	予期せぬ妊娠をした際の相談窓口の周知徹底				
指標および目標値の評価(C)	評価	理由						
	4 現状維持	R3年度は残念ながら1件の周産期死亡があった。 引き続き、妊娠・出産等に係る支援体制整備を図る。						
今後の方針・改善策等(A)	今後も継続して、切れ目ない支援を継続。							

## 主な事業の個別評価

### (1) 不妊治療を行う方への各種支援(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	妊娠・出産の希望をかなえるための経済的負担の軽減は、出生数の向上にもつながり効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	3 継続(縮小)	一般・特定不妊治療の保険適用に伴い、助成事業を廃止。なお、年度をまたぐ特定不妊治療については、経過措置を講じる。

### (2) 保育料等、子育て支援としての各種経済的支援(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	5 極めて効果的である	多子世帯の保育料の負担軽減のため補助金を交付することにより、経済的負担が集中するタイミングにおける子育て家庭の不安が軽減され効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も現状維持し、引き続き経済的支援、子育て環境の整備を図る。

### (3) 安心して出産、子育てができる保健、医療体制及び各種支援制度の充実(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	5 極めて効果的である	子ども医療費の窓口現物給付により、子育て家庭への経済的負担が軽減されており、安心して子育てのできる環境整備に効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も現状維持し、引き続き経済的支援、子育て環境の整備を図る。

### (4) 子どもとその保護者同士の交流の場の提供や相談体制の整備(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	屋内遊び場(わんぱく広場)の設営・月1回の育児くらぶの開催は、同年齢の子ども同士の交流・同じ悩みを持つ保護者同士の交流の場として効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も保育士や保健師・管理栄養士等関係者と連携を図りながら事業を継続し、子育て環境の整備を図る。

### (5) 児童生徒の放課後の活動場所の確保と働く保護者への支援(住民福祉課・教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	5 極めて効果的である	児童クラブは保護者の就労等により昼間家庭にいない子どもを対象として、子どもに適切な遊び及び生活の場を提供する必要な組織である。
事業の効果についての評価	4 効果的である	放課後の安全な居場所づくりとして、子育てと学習支援の双方で有効である。
	評価	評価理由および方向性
必要性評価および今後の方向性	5 極めて効果的である	今後も新入学生の保護者等に対し、児童クラブの説明を行い、制度周知を図っていく。
	4 継続(現状維持)	就労している保護者のニーズに応えるべく、今後も継続していく。

住  
教  
住  
教

### (6) 心身に障害のある子どもとその保護者を対象にした交流の場等の提供(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	3 どちらともいえない	R3年度実績なし (鏡石町社会福祉協議会主催のふれあい交流会を周知し、2名参加)
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	2 改善・見直し	コロナ禍に加え、参加者のニーズが多様であることやスタッフの確保等課題もあることから、実施内容や実施方法について検討していく必要がある。

(7)産後の方への心身をケアする体制の整備(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	産前・産後ヘルパー派遣事業や産後ケア事業を実施することで、母親の育児に対する負担感の軽減を図ることができ、効果的である。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	引き続き継続し、安心して子どもを産み育てる事のできる環境整備を図る。

(8)乳幼児家庭への子育ての不安軽減(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	地区担当保健師による赤ちゃん訪問(全戸)を実施することで、母親の育児に対する負担感の軽減を図ることができ、効果的である。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	引き続き継続し、安心して子どもを産み育てる事のできる環境整備を図る。

(8)就学・就労の際の生活準備金等の支援(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	てんえいジュニア応援金として、支援を必要とする家庭へ中学卒業後の進路にあわせた生活支援金を支給しており効果的である。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	支援の手が少なくなる中学卒業後の新たなステージにおける支援金の支給は、今後も継続していく必要がある。

(9)ひとり親家庭への各種助成等の支援(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	支援を必要とするひとり親家庭に対し、医療費の現物給付や児童扶養手当支給を実施し、経済的支援に効果的である。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	ひとり親家庭への支援は今後もさらにきめ細かく必要になると思われるため、経済的支援は継続していく必要がある。

(10)子育て世代包括支援センターを軸とした各種子育て支援の情報発信と相談機能の充実(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	ICTを活用した電子母子手帳サービス「てんえいママサポアプリ」の導入を継続し、妊娠中から出産、子育て期に必要な情報をタイムリーに発信している。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	引き続きタイムリーな情報発信を行い、子育て環境の整備を図る。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	<b>基本目標3 結婚・出産・子育て等サポート体制の充実</b>							
施策	<b>3. 特色ある学びの場の形成</b>							
重要業績評価指標 (KPI)	全国学力・学習状況調査 (問題全国平均正答率の比較)			目標値	全国平均を上回る	(R6)	担当課	教育課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1	/	全国平均と同程度	/	村内小・中学校全国学力検査結果		
	目標と実績	R2	R2	全国平均を上回る	なし	-	R2は全国学力・学習状況調査なし	
		R3	R3	全国平均を上回る	小: 全国平均を下回る 中: 全国平均と同程度		小学校は全国平均を下回る、 中学校は全国平均と同程度	
		R4	R4	全国平均を上回る				
		R5	R5	全国平均を上回る				
		R6	R6	全国平均を上回る				
		合計	合計	/	/	/	/	
主な事業の取組状況	県教育委員会が作成した「ふくしまの授業スタンダード」を基に主体的・対話的で深い学びが各校で展開されるとともに、「ふくしまの家庭学習スタンダード」による家庭学習への取組みの習慣化を推進した。令和3年度は、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均と同程度だった。							
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	問題・課題等 (C)		理由			達成率	
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由		理由				
今後の方針・改善策等 (A)	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業の改善を図り子どもたちの学習意欲を喚起するとともに、家庭学習の習慣化を推進し、確かな学力の定着を図っていく。また、県の算数・数学授業づくり支援訪問事業の積極的な活用や、令和3年度から導入したAIDリルによる子どもたち一人一人に合った学びの実現を図る。							

重要業績評価指標 (KPI)	英検3級取得率(中学校卒業まで)			目標値	30.0%	(R6)	担当課	教育課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1	/	12.0%	/	3級以上取得生徒/村立中学生		
	目標と実績	R2	R2	30.0%	19.1%	63.7%	26名/136名	
		R3	R3	30.0%	18.5%	61.7%	24名/130名	
		R4	R4	30.0%		0		
		R5	R5	30.0%		0		
		R6	R6	30.0%		0		
		合計	合計	/	/	/	/	
主な事業の取組状況	中学校卒業までに全員が英語検定3級以上を取得することを目指し、英語検定の受講料を補助する。							
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	問題・課題等 (C)		理由			達成率	
指標および目標値の評価 (C)	評価	理由		理由				
今後の方針・改善策等 (A)	村内の中学生のほぼ全員が英語検定を受検しており、英語学習意欲の向上に繋がっている。英語検定3級は中学校卒業レベル相当であることから、事業方針・内容については現状維持とし、他の英語教育関連事業の効果的な実施とあわせ、引き続き支援していく必要がある。							

## 主な事業の個別評価

### (1) つなぐ教育の推進をはじめとする各種教育研究公開や会議等の開催(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	つなぐ教育推進会議を2回開催したほか、各教育部会、特別支援教育部会、学校・家庭地域連携部会、教育環境向上部会を開催し、各校園の取組のよさや課題を共有し、課題解決に向けた共通実践事項の企画、検証、改善を行った。 幼稚園の保育、小・中の授業を参観し、子どもの姿を踏まえた協議の場を持つことで、子ども理解、指導の工夫、改善に活かされ教職員の指導力向上に繋がった。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	小規模校が多い本村では、教員数も少なく、学校単位での教育研究や教育実践に対する協議の深まりが得にくい状況にあるため、今後も継続して事業を実施する必要がある。 校種を越えた教職員の授業研究、研修の機会は、教育の資質・能力の育成のために欠くことができない。幼小中で共通理解を図り、一貫した指導による教育の充実のために今後も引き続き事業を行う必要がある。

### (2) 超小規模校と村内小学校との交流学习等の推進(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	湯本小学校と大里小学校との交流学习は1回、牧本小学校との交流学习は3回実施し、多様な集団の中で切磋琢磨する体験を通して、学校生活・学習環境の充実を図った。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	湯本小学校の児童の数も減少しており、学校単独では多様な集団を形成することが困難であることから、大里小学校や牧本小学校と交流し、引き続き事業を実施していく。

### (3) 未就学児に対する就学時検診までの相談体制の整備(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	5歳児(年長児)の保護者を対象に、春と秋の2回、教育相談を実施し、発達障がいや特別支援教育への理解を促す機会となった。個別の教育相談や早期の発達検査を呼び掛けることができた。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	子ども自身、保護者の不安や困り事への早期の対応が必要であり、特別支援教育の周知、教育相談の充実は、今後、より一層重要度を増すことから、引き続き事業を行う必要がある。

### (4) サマースクール等の各種教室開講による愛村心を育む教育の推進(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	夏季休業の期間を利用し、小学校5・6年生を対象に実施し、小学校6年生は、天栄中学校で国語、算数などの学習や部活動の様子、中学校の様子を見たりするなどの体験を通して中1ギャップの解消を図ることができた。また、小学校5年生は、ブリティッシュヒルズや湯本小学校の周りを散策しながら湯本地区の歴史と自然の学習を行うなど、郷土愛を育むふるさと教育の実践に努めた。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	中1ギャップの解消やふるさと教育の充実を図るため、今後も引き続き5・6年生を対象に実施していく。



(5) 各校園の実態把握、要請対応や児童生徒の様々な悩み等に対応する相談体制の整備(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	指導主事を各校園に派遣し少人数学級の学習のあり方など授業改善に取り組み、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーにより、各校園の不登校などの実態把握や要請に対応し、子どもや保護者が抱えている悩み、家庭や学校における課題に対し、面談や家庭訪問等により状況を把握し、関係機関と連携し総合的な支援を行った。
	評価	評価理由および方向性
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	学力向上や心を育む教育を推進するためには、指導主事の助言等が必要不可欠であり、個々の様々なケースに対応するためには、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの専門的なサポートが必須であり、今後も事業の継続が必須である。

(6) 村職員の資質能力育成のための各種研修会の開催(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、神田外語大学より専門的な見識をもつ講師を招聘した研修会は実施できなかったが、県中教育事務所の講師を招聘した研修会を実施した。新学習指導要領に向けた指導の在り方や授業づくりについての実践的な研修を実施する。
	評価	評価理由および方向性
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	小学校においても外国語の授業が必須となり、英語教育に対する教員の指導力向上も必須であることから、継続した事業の実施が必要である。

(7) 各種資格、検定等取得の推進、支援(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	英語検定3級取得率の目標値達成には至っていないが、中学生のほぼ全員が英語検定を受検しており、令和3年度から小学生高学年の英語検定に係る受講料への補助も開始し、英語に対する学習意欲の向上に繋がっている。
	評価	評価理由および方向性
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	英検は全国共通の指標と問題により実施されるもので、実用性も高いため生徒の英語力向上を図るには適切であり、学習意欲の向上にも繋がることから継続して実施する。

(8) 特色ある学校づくりのための各種支援(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	各学校ともにそれぞれの地域にある資源、環境、人材を活用し、地域の特色をいかした活動に取り組んでおり、地域と連携しながら地域の良さを学ぶことができた。
	評価	評価理由および方向性
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も、地域と連携した特色ある学校づくりを推進するため、継続した事業の実施が必要である。

(9) ICT等の技術を活用した教育の推進(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	学校における教育の情報化を推進するため、専門的な知識や技術を要する民間事業者へ委託し、プログラミング教育講座やICT機器の活用などについての支援を行った。
	評価	評価理由および方向性
必要性評価および今後の方向性	5 継続(拡大)	国のGIGAスクール構想により整備した児童生徒一人一台の学習用端末と高速大容量の通信ネットワークを効果的に活用した学びを実現するため、より一層事業を推進し、ICT教育の充実を図る必要がある。

## (10) 英語体験学習施設等外部機関連携の英語教育等の推進、支援(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	ブリティッシュ・ヒルズにおいて小学校の全児童が日帰りで、中学2年生が1泊2日で実施し、異文化への理解を深めるとともに、英会話能力とコミュニケーション能力の育成と英語教育・国際教育の充実に努めた。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	国際理解を深め国際性を養うとともに、異なる文化や言語をもつ人とのコミュニケーションという主体的な活動を通して、外国語運用能力・コミュニケーション能力を育成し、英語教育と国際教育の充実を図るため、今後も継続した事業の実施が必要である。

## (11) 国際交流を図るための各種事業の実施(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	3 どちらともいえない	新型コロナウイルス感染症防止策として、各事業が実施できなかった。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も継続したい。

## (12) 学校司書等配置による児童生徒の教育育成の支援(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	令和2年度から学校司書を1名配置し、大里小・広戸小・牧本小、天栄中の各校で学年ごとに本棚を配置・本の整理をし、読書推進の啓発を実施した。特別支援教育支援員も各学校に配置し、授業における支援を図った。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	子どもの言葉、感性、表現力、創造力等を豊かなものにするためには、読書は必要であり、今後も継続していく必要がある。支援を要する児童生徒への対応は、今後も継続していく必要がある。

## (13) 学校、保護者、地域住民による学校を支える体制づくりの推進(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	5 極めて効果的である	学校運営協議会委員の保護者や地域住民が実際に学校を見て情報や課題を共有し、課題解決に向けた協議を行うなど、学校運営に参加することにより、学校に対する保護者や地域の理解が深まるとともに、学校が有する課題の解決にも繋がった。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	健全な子どもの育成、活力ある学校、地域の活性化を図り、学校・家庭・地域が協働して学校運営の改善と充実を図れるよう、継続した事業を実施する。

## (14) 子どもたちの夢や目標の実現に向けた各種支援(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	1 効果的ではない	感染症の感染拡大により、今までの支援の形態での事業展開が難しく、当年度は事業実施ができなかった。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	2 改善・見直し	感染症の収束の兆しが見えないため、子どもたちをメインターゲットとする本事業は改善や見直しが必要と思われる。

## (15) 地域のボランティアと各校園の連携強化を支援(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	各年齢層ごとの英会話教室の実施により「英語の村てんえい」の推進に寄与した。また、中学校の部活動支援により専門的な技術指導が行われるとともに、教員の負担軽減が図られた。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も継続したい。

(16)放課後の学習や部活動等の支援(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	中学3年生の学力向上・進路希望の実現を目指して、塾講師による授業を夏休み・冬休みに14日、延べ546人に実施した。 天栄中学校のサッカー部において部活動指導員を活用しており、専門的な技術指導を受けることが可能となった。また、指導人員不足や未経験協議の技術指導に対する教員の負担軽減にも繋がった。
必要性評価および今後の方向性	5 継続(拡大)	学校での授業の補完的な役割として理解力が増し、学力や学習意欲の向上につながるため、継続して事業を実施する必要がある。 部活動において、技術的指導を受けることができ、また、教員の負担軽減にも繋がっていることから、他の部活動への指導員の配置も検討し、継続して事業を実施する必要がある。 また、令和5年度から令和7年度にかけて、休日の部活動を地域に移行し、令和8年度から、平日の部活動も地域に移行していくことから、指導員等の人材の育成や確保等が重要になってくる。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標3 結婚・出産・子育て等サポート体制の充実					
施策	4. 若者求心力の創出					
重要業績評価指標(KPI)	村外の大学生と地元住民との交流事業の開催		目標値	400人	(R2～R6累計)	担当課 湯本支所
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)
	基準値	R1		-		
	目標と実績	R2	100名	76名	76.0%	オンラインでの事業展開を実施
		R3	200名	10名	5.0%	文化祭展示への協力
		R4	300名		0.0%	
		R5	400名		0.0%	
		R6	400名		0.0%	
合計						
主な事業の取組状況	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、交流までには至らなかったが、湯本地区文化祭展示において出品という形で協力していただいた。					
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)	コロナ禍での交流には限りがあると感じた。今後交流形態について検討したい。			
	2 未達成(50%未満)					
指標および目標値の評価(C)	評価	理由				
	4 現状維持	都市部と農村部との交流や若者の定着、流出抑制を図るためにも実現に向かって努力したい。				
今後の方針・改善策等(A)	都市部との交流及び地域の方々の生きがいづくり、若者の村外流出防止、故郷への愛着等図るためにも引き続き事業展開を図っていきたい。					

## 主な事業の個別評価

(1) 大学生等外部人材を活用した交流事業の推進(湯本支所)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	村外の大学生等と地域の方々が交流することで改めて地域の良さに気付くきっかけにも繋がっている。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	継続して事業実施していく。

(2) 若者世代のニーズ把握と若者参加の場の創出(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	3 どちらともいえない	コロナ禍により、実施できていない。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	若者のニーズ把握と広域的な取り組みも視野に入れ検討していく。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標		基本目標4 暮らしやすい生活環境の形成				
基本目標指標	”住みやすい”と答えた人の割合			目標値	72.5%	(R6) 担当課 企画政策課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)
	基準値	R1		52.3%		
	目標と実績	R2		-		
		R3		-		
		R4				
		R5				
		R6	72.5%			0.0%
合計						
主な事業の取組状況(D)	令和元年9月に村内在住の15歳以上65歳未満の方から無作為に抽出した500名を対象に村民アンケートを実施し、第2期総合戦略においてアンケート結果をもとに様々な施策を展開している。					
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		アンケート実施年度ではないため、KPI分析不可。		
指標および目標値の評価(C)	評価		理由			
	4 現状維持	感染症の影響により“住みやすい”の価値や指標に変化があることも予想されるが、まだ計画年度途中(2年目)であるため現状維持とする。				
今後の方針・改善策等(A)	第2期総合戦略において、“住みやすい”と思われるよう各種施策を講じた。計画期間の最終年度(R6)に当期の評価や次期計画の参考のために再度アンケートを実施予定。					

施策		1. 地域連携による経済・生活圏の形成				
重要業績評価指標(KPI)	郡山広域圏における連携の推進			目標値	継続	(R2~R6) 担当課 企画政策課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)
	基準値	R1		継続		都市圏ビジョン改訂
	目標と実績	R2		継続	100.0%	連携協約の一部変更・PR映像制作
		R3		継続	100.0%	都市圏ビジョン改訂・公民協奏パートナーシップ包括連携協定締結
		R4				
		R5				
		R6				
合計						
主な事業の取組状況	人口減少・少子高齢化社会においても、活力ある地域経済を維持するとともに、圏域住民全体が将来も安心して快適な生活が送れる地域づくりを目指し、17市町村が連携し各種事業に取り組んでいく。令和3年度に磐梯町が加入し、現在圏域構成市町村は17市町村。					
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		構成市町村も増え、SDGsやDXの推進等、新たな分野への情報共有や連携を通し、圏域全体で住民の生活水準向上や課題解決に寄与することができている。		
指標および目標値の評価(C)	評価		理由			
	4 現状維持	市町村規模等の違いから、構成市町村と完全に足並みを揃えて事業展開することは難しいが、意識の醸成や情報共有でも効果は見られ、今後も現状維持していくことが妥当と思われる。				
今後の方針・改善策等(A)	今後も、郡山市を中心として各種連携事業に取り組んでいくとともに、SDGs未来都市である郡山市から本村独自のSDGs関連施策のためのヒントやきっかけ提供を受けながら村全体のSDGs推進を図る。					

## 主な事業の個別評価

(1) 連携中枢都市圏による連携推進(企画政策課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	各市町村の各種事業やコロナウイルス感染症に関する情報共有、災害時における相互応援体制の構築など、連携により一定の効果はあったものと考えられる。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	郡山市を中心として各種連携事業に取り組んでいく。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標4 暮らしやすい生活環境の形成							
施策	2. 誰もが暮らしやすい生活環境づくり							
重要業績評価指標(KPI)	バス・タクシー利用券の利用件数			目標値	40件	(R6)	担当課	企画政策課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		22件		バス17件、タクシー5件		
	目標と実績	R2	30件	21件	70.0%	バス15件、タクシー6件		
		R3	30件	20件	66.7%	バス12件、タクシー8件		
		R4	30件		0.0%			
		R5	30件		0.0%			
		R6	40件		0.0%			
合計								
主な事業の取組状況	天栄村高齢者バス利用助成事業、天栄村高齢者等タクシー利用助成事業ともに、ホームページへの掲載や各種事業やイベント時に併せてチラシの配布を行い利用の促進を図っている。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価		問題・課題等(C)	コロナ禍による外出機会の制約や、対象者要件等が住民ニーズとミスマッチしていることで新規利用者が減少したため。				
	3 未達成(80%未満)							
指標および目標値の評価(C)	評価		理由					
	4 現状維持		今後も交通弱者の需要は見込まれるため現状維持とする。					
今後の方針・改善策等(A)	住民ニーズや本村の交通や移動の環境を全体的に把握し、状況に応じ要綱見直しを図る等、高齢者や障害者等への公共交通確保の観点から継続して的確な支援を行っていく。							

重要業績評価指標(KPI)	福祉車両貸出件数			目標値	50件	(R6)	担当課	住民福祉課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		25件				
	目標と実績	R2	30件	22件	73.3%	実利用人数5人		
		R3	35件	11件	31.4%	実利用人数4人		
		R4	40件		0.0%			
		R5	45件		0.0%			
		R6	50件		0.0%			
合計								
主な事業の取組状況	福祉車両貸出事業として、村内に居住する自力で歩行が困難な高齢者や重度の身体障害者又は知的障害者等に対し、外出を支援するために福祉車両の貸出しを実施し、健康で生きがいのある長寿・福祉社会づくりを図る。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価		問題・課題等(C)	事業の周知				
	2 未達成(50%未満)							
指標および目標値の評価(C)	評価		理由					
	4 現状維持		往診等の充実により利用件数は伸び悩んでいるが、必要な在宅高齢者、障がい者は一定数おり、周知等により今後の需要が見込まれることから現状維持とする。					
今後の方針・改善策等(A)	広報活動や地域包括支援センター・ケアマネージャーへの周知活動を重点的に実施し、事業の浸透を目指す必要がある。							

重要業績評価指標 (KPI)	高齢者生きがい活動支援事業参加者数			目標値	300人	(R6)	担当課	住民福祉課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		250人				
	目標と実績	R2	200人	180人	90.0%			
		R3	200人	153人	76.5%	水中14名、サロン77名、湯ったり62名		
		R4	250人		0.0%			
		R5	250人		0.0%			
		R6	300人		0.0%			
合計								
主な事業の取組状況	高齢者の生きがいづくりを目的に、湯ったりミニデイサービス事業(年5回)、水中ウォーキング事業(年9回)、いきいきサロン事業(年9回)、湯本サロン事業(年9回)を実施している。令和3年度はコロナ禍により、事業の実施回数が減ってしまったが、できる事業については、オンライン等を活用し継続的に実施した。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		参加者が固定してしまっており、なかなか外に出たがらない消極的な高齢者の掘り起こしが難しい。また、コロナ禍で事業が思うように実施できない中、参加者の意欲も低下しつつある。				
指標および目標値の評価(C)	評価	理由						
	4 現状維持	コロナ禍により事業参加者が減少しているところではあるが、今後さらに需要、必要性が見込まれるため現状維持とする。						
今後の方針・改善策等(A)	各種事業の実施形態の工夫を模索し、あらゆる状況に対応できる事業展開を図り、参加者の意欲向上・参加者数の増加を目指す。							

重要業績評価指標 (KPI)	地域自主サロン数及び参加者数			目標値	8か所	(R6)	担当課	住民福祉課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		4か所		参加者数50人		
	目標と実績	R2	5か所	4か所	80.0%			
		R3	6か所	5か所	83.3%	参加者数59人		
		R4	7か所		0.0%			
		R5	8か所		0.0%			
		R6	8か所		0.0%			
合計								
主な事業の取組状況	地域コミュニティ及び健康増進、介護予防の推進のため、各地区又はグループによる茶話会に健康体操や栄養指導、口腔衛生指導を実施。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		各地区におけるリーダー等の人材不足				
指標および目標値の評価(C)	評価	理由						
	4 現状維持	コロナ禍もあり、歩いて行ける距離での介護予防・ご近所との仲間づくりの場を持つことが今後も重要であるため。						
今後の方針・改善策等(A)	ボランティア養成講座等により各地域におけるリーダーを育成し、新規自主サロンの立ち上げを目指す。							



## 主な事業の個別評価

### (1) 高齢者や移動制約者等に対する交通利便性確保の各種支援の充実(企画政策課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	本村の条件不利な移動・交通環境を鑑みると高齢者等の交通弱者への支援として効果的であるが、利用者の減少をみると住民ニーズとのミスマッチが現れている。
必要性評価および今後の方向性	5 継続(拡大)	高齢者等への公共交通確保の観点から継続して支援を行っていくが、実績分析やヒアリング等による現状把握を行い、支援内容の拡充を図る。また、感染症の感染拡大による公共交通網への制約等についても見直しの際は考慮していく。

### (2) 高齢者等の交流機会の提供、各種健康増進事業等の実施(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	介護予防、閉じこもり防止、生きがいがづくりの面で効果を発揮している。また、事業内容の見直し、検討、改善を関係者間で随時行うことにより、支援体制づくり、連携強化も図っている。
必要性評価および今後の方向性	5 継続(拡大)	参加者拡大だけでなく、事業運営の面にも活躍できる人材を発掘し、社会活動参加の促進や生きがいがづくりの強化を図る。

### (3) 高齢者の生きがいがづくりの機会と場所の確立と拡大、充実(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	介護予防、閉じこもり防止、生きがいがづくりの面で効果を発揮している。また、事業内容の見直し、検討、改善を関係者間で随時行い、事業の強化を図っている。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も継続的に実施する。

### (4) 心身障害者等に対する各種支援(住民福祉課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	5 極めて効果的である	障害者の地域生活の支援、自立支援の面で効果を発揮している。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も継続的に実施する。

### (5) 生涯学習を通じた村民交流の場の確保(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	新型コロナウイルス感染症の影響により一部事業の中止や規模縮小等があったが、参加者には概ね満足いただき、村民同士の交流が図れた。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	今後も生涯学習事業を通じて、村民同士の交流を図っていきたい。

### (6) 成人式、1/2成人式の開催(教育課)

	評価	評価理由
事業の効果についての評価	4 効果的である	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施日の延期及び前年度に引き続き来賓者の縮小などはあったものの、新成人の門出を祝う式典を開催できた。
必要性評価および今後の方向性	4 継続(現状維持)	成人年齢引き下げに伴い、対象者や開催方法について検討が必要となるが、参加者の節目を祝う式典として開催する。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標4 暮らしやすい生活環境の形成						
施策	3. 既存施設の利活用						
重要業績評価指標 (KPI)	生涯学習センター利用者数 体育施設利用者数			目標値	92,000人 39,000人	(R6) (R6)	担当課 教育課
	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)	
事業経過 (生涯学習センター利用者数)	基準値	R1		76,776人			
	目標と実績	R2	80,000人	111,237人	139.0%	確定申告会場として利用	
		R3	83,000人	127,983人	154.2%	確定申告会場として利用	
		R4	86,000人		0.0%		
		R5	89,000人		0.0%		
		R6	92,000人		0.0%		
		合計					
事業経過 (体育施設利用者数)	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)	
	基準値	R1		34,656人			
	目標と実績	R2	35,000人	16,937人	48.4%	新型コロナウイルス感染症防止策により利用停止の期間があった。	
		R3	36,000人	24,055人	66.8%	新型コロナウイルスワクチン接種会場として利用する期間があった。	
		R4	37,000人		0.0%		
		R5	38,000人		0.0%		
		R6	39,000人		0.0%		
合計							
主な事業の取組状況	生涯学習センターについては、各種講座等主催事業の他、各種団体等への会議、活動への貸し出し利用、また、一般の方々等の図書室利用や中学生の下校時の待機場所としての利用がある。 また、体育施設については天栄村総合農村運動広場、天栄村体育館、天栄村屋内運動場、天栄村屋内スポーツ運動場を村主催行事の他、村内外の個人、団体及び中学校の部活動等に貸し出ししている。						
目標 (KPI) 達成分析 (C)	評価	5 達成(100%以上)	問題・課題等 (C)	新型コロナウイルスワクチン接種会場として村体育館を利用したため、利用人数が昨年度より増加したが、感染症防止策として感染状況により施設の利用停止の措置をとったため、令和元年度より利用人数が減少した。			
	理由			現在の利用状況は、施設によっては飽和状態のため、これ以上大幅な利用者の増加は難しい。			
指標および目標値の評価 (C)	評価	4 現状維持	理由				
	理由		現在の利用状況は、施設によっては飽和状態のため、これ以上大幅な利用者の増加は難しい。				
今後の方針・改善策等 (A)	生涯学習センターにおいては、今後とも教育関係者の会議や社会教育団体等に貸し出していく。体育施設については各種大会等での利用を積極的に受け入れていく。また、村民の文化活動やスポーツ等を行う場の整備に努めていく。						

## 主な事業の個別評価

(1) 各種イベント・大会及び練習による村保有施設の有効活用(教育課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
3 どちらともいえない		新型コロナウイルス感染症防止策として感染状況により、施設の利用停止の措置をとるため利用者数が減った。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
4 継続(現状維持)		今後も団体への利用PRをしながら、受け入れを図っていきたい。

(2) 村民の健康増進と交流機会の創出(住民福祉課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	健康保健センターの健康増進施設利用者数は、子育て広場や世代間交流事業、トレーニングジムや高齢者の運動教室など妊産婦から子供、成人、高齢者まで幅広く活用している。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も幅広い世代の健康づくりや交流機会の確保のため継続が必要。

(3) 空き家等情報の提供、相談体制の充実(再掲)(建設課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	空き家への所有者、利用者のニーズを細かく把握し対応している。移住者確保に繋がっているケースもあり効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	今後も移住施策や空き家バンク等を通じた情報提供を積極的に行い、相談体制の充実と関係者間の連携強化を図る。

(4) 空き家等の利活用の推進、支援(再掲)(建設課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	空き家バンクによりUターン者だけでなくI・Jターンの移住者への住宅確保実績があり、幅広く効果的である。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	「住める空き家・住みたくなる空き家」としての整備を図るため、各種補助等を周知広報し、利活用が困難な空き家に関しては解体を促す等、新築のための土地利用の推進・検討も併せて行っていく。

# 天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シート(令和3年度)

基本目標	基本目標4 暮らしやすい生活環境の形成							
施策	4. 消費喚起の拡充							
重要業績評価指標(KPI)	ふるさとサポーター会員数			目標値	550名	(R6)	担当課	産業課
事業経過	項目	年度	目標値	実績値	達成率	備考(実績の概要など)		
	基準値	R1		514名				
	目標と実績	R2	550名	553名	100.5%			
		R3	550名	508名	92.4%			
		R4	550名		0.0%			
		R5	550名		0.0%			
		R6	550名		0.0%			
合計								
主な事業の取組状況	天栄村を支えていただける応援団「天栄村サポーター」を募集する。会員に、イベント等の案内を随時お知らせするとともに、特典付き会員パスポートを送付し来村を促進する。さらに、4,000円相当の村特産品及び商品紹介のチラシ等を送付し、新規顧客の開拓等の事業効果を図る。							
目標(KPI)達成分析(C)	評価	問題・課題等(C)		サポーター会員の来村が少ないため、観光客誘客促進のためにも、サポーター会員の来村を促すような新たな取り組みや改善を実施することが課題である。				
指標および目標値の評価(C)	評価	理由						
	4 現状維持	サポーター会員のPRを積極的に行い、会員の増加及誘客促進に努める。						
今後の方針・改善策等(A)	関係人口及び観光入込の促進の観点からも、新たな企画の検討を行うとともに、引き続き新規会員の増加を図る。							

## 主な事業の個別評価

(1) 商品券発行や村産品PR関連施策等による消費喚起の促進(産業課)

事業の効果についての評価	評価	評価理由
	4 効果的である	発売日直後に売り切れ状態になるなど、商工業者への経済効果並びに消費者への利便性の向上につながった。
必要性評価および今後の方向性	評価	評価理由および方向性
	4 継続(現状維持)	引き続き本事業を実施し、商工業者への経済効果並びに消費者への利便性の向上を図っていきたい。